

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	神埼市立千代田中学校
1 前年度 評価結果の概要	・保護者アンケートの結果からは本校の教育活動について、おおむね肯定的な評価をいただいた。特に「学校は教育相談週間等でお子さんの悩みや相談に適切に対応していると思いますか」の質問には92.1%の保護者が肯定的な回答であった。しかし、学力向上に関しては県学習状況調査(12月)等の結果から依然として無回答率の高さや記述式の問題への取組に課題があることがわかった。今後、全職員一丸となって、生徒の学力向上に向けて、指導法の改善を行うとともに、学校、家庭、地域と連携しながら役割を明確にして取り組んでいく。

2 学校教育目標	夢と誇りを持ち 自ら学び行動できる 心身ともに調和のとれた生徒の育成 ~ Chance Challenge Change ~
----------	---

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力の育成 ~活躍の場と議論の場を設け、自ら学ぶ意欲を育てる学習指導~ 2 豊かな心の育成 ~出番・役割・承認による「生徒理解」に基づいたチームでの生徒指導~ 3 健やかな体の育成 ~健康や安全の確保に取り組む態度の育成~ 4 自主・自立・自律の推進 ~生徒会活動の活性化~ 5 学校・家庭・地域との連携 ~学校で学び、家庭でしつけ、地域で育てる協育の構築~ 6 教職員の働き方改革~教職員が健康を維持し、やりがいをもって業務遂行できる環境づくり~
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価				
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果・検討課題	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・校内研究会で各教科の「まとめ」や「振り返り」についての認識を確認しあひ、学校全体での共通認識を再確認した。 ・計画をもとに授業公開を進めている。	B	・校内研究会で各教科の「まとめ」や「振り返り」についての認識は確認できたが、今後はより効果的な「まとめ」や「振り返り」となるよう検討が必要である。【成果指標達成83%】	B	・さらなる指導の充実をお願いしたい。	研究主任
	○活躍の場と議論の場をえ、自ら学ぶ意欲を育てる学習指導	○学習に関するアンケートで「課題解決的な授業を展開するための「めあて」の設定と「めあて」に合わせた「振り返り」の工夫、次時につなげる「振り返り」の工夫」を行った教師90%以上、「授業はよく理解できる」、「授業中わからないところを質問しやす」と回答した生徒90%以上、	・課題解決的な授業を展開するための「めあて」の設定と「めあて」に合わせた「振り返り」の工夫、次時につなげる「振り返り」の工夫 ・授業中、「わからない」「教えて」と言える授業づくりの改善を図るとともに学級における支持的風土の醸成を図る。また、「わからない」「教えて」と言えた生徒への手立てを工夫する。	A	・学習アンケートで「授業中の内容を理解できている」「授業中わからないことを質問しやす」と回答した生徒の割合がそれぞれ4~5ポイント上昇した。 ・お互いに公開した授業の中では、課題解決的な授業が展開されており、生徒にも取組みへの意欲が見られた。 今後さらに学級における支持的風土の醸成を図る。また、「わからない」「教えて」と言えた生徒への手立てを工夫を推進していく。	B	・教員間で授業を公開して参観しあうことで、課題解決的な学習を進める上での工夫等に気づき考えることができた。【教師アンケートで100%、1回目より教職員の意識は6ポイント向上】 ・学習状況調査等の結果には十分結びついていないところもあり、個別最適化したまなびについても検討が必要である。【生徒アンケートで授業の理解93.7%、質問のしやすさ79.8%】	B	・さらなる指導の充実をお願いしたい。	研究主任、副主任 教頭
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートの実施 ・神埼市4か条の誓いを具現化した道徳授業の実施	・充実した人権週間、人権集会の取組が行われた。(教員によるローテーションでの講話、生徒発表や委員、教員の講話による人権集会等)	A	・定期的な人権週間、人権集会の取組が行われた。(教員によるローテーションでの講話、生徒発表や委員、教員の講話による人権集会等)	A	・人権集会や日々の道徳の授業を通じて、豊かな心の育成に努めた。ただし、保護者への情報発信の機会が少なかった。【生徒アンケートで肯定的意見96.4%、1回目より5ポイント向上】	A	・さらなる指導の充実をお願いしたい。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・いじめアンケート調査や月ごとの生活アンケート調査を行い、実態の把握に努め、早期対応をする。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。 ・生徒指導部会、生徒指導協議会等を通して職員間で生徒に関する情報を密に共有する。また、学校での生徒の様子を家庭連絡等で保護者に伝えるだけでなく、アンケートの実施状況や学校で起きていることを積極的に学校外に伝え、可能な限り情報を共有していく。	A	・定期的ないじめアンケートの確実な実施とアンケート後の相談・指導による早期対応ができていく。 ・生徒指導部会、生徒指導協議会等を通して職員間で生徒に関する情報を密に共有する。また、学校での生徒の様子を家庭連絡等で保護者に伝えるだけでなく、アンケートの実施状況や学校で起きていることを積極的に学校外に伝え、可能な限り情報を共有していく。	A	・定期的に生活アンケートを行い、生徒の不安や悩みを担任等が対応していくことで、生徒の安心度は向上している【生徒・保護者とも学校評価アンケートで5ポイント向上】 ・定例の協議会以外でも、授業等での気づき等を職員間で定期的に情報共有している。【教職員アンケートでいじめの組織的対応100%】	A	・さらなる指導の充実をお願いしたい。	生徒指導主事 教育相談主任
	○不登校生徒・問題行動への早期対応	○学校生活を起因とする新たな不登校生徒0人を目指す。 ○連絡、報告、相談の迅速対応による問題行動への早期対応ができたと回答した教員90%以上	・学校生活を起因とする新たな不登校生徒0を目指す。 ・教育相談習慣の充実、教育相談部会の活性化、SSW、SCの活用、生活支援員による別室登校への支援、関係機関等との連携を深める体制を築く。 ・連絡、報告、相談の迅速対応の生徒指導体制の確立を行う。	B	・明確に学校生活を起因とする不登校とはいえないものの不登校生徒が増えている。 ・教育相談の充実やSCの活用、生活支援員による別室登校への支援、適応指導教室等との連携により、別室登校に複数の生徒が繋がった。	B	・2年生の長期欠席の生徒の状況は大きく変わっていない。3年への進級を前に学習に目を向け、タブレットでの自宅学習や適応指導教室への入級等の動きが出てきた。 ・1年生に不登校傾向の生徒が増えている。一方、別室ではあるが毎日登校ができるようになった生徒も出てきた。 【新たな不登校2名、教職員アンケートで早期対応100%】	B	・指導等苦勞も多いと思うが、指導の一層の充実にも努めていきたい。	生徒指導主事 教育相談主任
	②「望ましい生活習慣の形成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	②「早寝、早起き、朝ごはん」ができた生徒75%以上 ③「安全に関する資質・能力の育成」 ④児童生徒の登下校時の交通事故を0(ゼロ)にする	・「早寝、早起き、朝ごはん」を推進するためにPTAと連携し、地区懇談会等で啓発活動を行う。 ・スマホ所持率調査の実施と実態把握によるPTAとの連携 ・生徒集会等を利用して自分の身を守る行動について啓発を行う。 ・学期はじめなどの節目に登校立ち番指導を行う。	・PTAとの連携による調査とはならなかったが、アンケートで「早寝、早起き、朝ごはん」ができた生徒や「携帯、スマホ、ゲームを夜9時以降に保護者に預ける」生徒の割合が増加した。ただし、保護者の認識ははずれがあった。 ・集会や放送等で週時、交通安全やSNS等の利用への注意喚起を行った。	B	・年度の後半は交通事故の発生の発生はなかった。ただし、登下校時の自転車での並進については、地域や保護者からの指摘もあり、十分に改善できていない。 ・SNSに関連するトラブルが発生し指導することがあった。使用についての指導が継続して必要である。 【生徒アンケートで早寝・早起き・朝ごはん77.1%、スマホ21時まで31.5%、交通事故2件発生】	B	・学校南側の中央道路は通行量も多く、常に注意が必要。横断歩道でも止まらない車もあるので、十分に安全を確認してから横断するよう指導をお願いしたい。 ・体育館南側からの不審者の侵入を防ぐことがない。権限スプレーを全職員に配布するなど防犯対策を一層進めてほしい。	B	安全教育担当 教頭(PTA担当)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休業日の設定と実施 ・業務の効率化に向けた役割分担と分担の随時見直し	・部活動休業日とあわせて定時退勤日にはほとんどの職員が退勤時間後1時間以内に退勤する等、意識は向上していると考えられる。 ・学校閉庁日もあり、夏季休業中に十分な休養が取れている。 ・業務の効率化に向けた役割分担は十分とは言えないため、随時の見直しとともに、次年度に向けて調整を進めていく。	B	・部活動休業日とあわせて定時退勤日にはほとんどの職員が退勤時間後1時間以内に退勤する等、意識は向上していると考えられる。 ・学校閉庁日もあり、夏季休業中に十分な休養が取れている。 ・業務の効率化に向けた役割分担は十分とは言えないため、随時の見直しとともに、次年度に向けて調整を進めていく。	A	・部活動の地域移行には、人材や予算の確保が不可欠。千代田町内は交通の便も悪く、日常的に保護者が送迎することは難しいのが現状。移行のための環境整備を働きかけてもらいたい。	A	教頭 部活動担当	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○自主・自立・自律の推進 生徒会担当 特別活動	○活力のある生徒会活動の醸成	○「すみそよあじ(スリッパ並べ・身だしなみ・無言掃除・四か条の誓い)いじめ防止・挨拶・時間」を実施した生徒の割合90%	・「すみそよあじ」と「かせち条約(礼儀作法、文武両道、思いやり、環境保護、規則遵守、健康管理)」を合言葉に各委員会の生徒会活動を充実させる。	B	・「すみそよあじ」の実践については、生徒の9割以上が意識しているとアンケートで回答している。あいさつやスリッパ並べについては生徒会に働きかけて取り組んだ結果、改善した。自ら気づいて考え、実践することができるようさらに働きかけていきたい。	A	・保護者や地域の方からよく挨拶をするとの話を聞く。履物をそろえることも改善された。今後はさらに時間を守ることなどさらに改善できるように取り組んでいきたい。 【生徒アンケートですみそよあじ実施93.7%】	A	・地域でもあいさつはよくできている。指導の継続をお願いしたい。	生徒指導主事 教頭
○学校・家庭・地域との連携 教務 総合 学年主任	○学校で学び、家庭でしつけ、地域で育てる協育の構築	○土曜開校日等の保護者参加率50%以上 ○ホームページの更新を月2回行い、情報を発信する。	・地域行事やPTA活動への積極的な参加 ・保護者や地域住民が参加しやすい学校行事等の設定 ・地域や関係機関との連携強化 ・総合的な学習の時間を生かした地域を跨る学校づくり	B	・コロナ禍の影響もあり、PTA活動も縮小せざるを得ない状況だった。現状も踏まえて、活動を精選し、絞り込んだ活動に注力できるように変えた。 ・地域との連携は、学校だより等の発信にとどまらず、コロナ禍でも連携できることを探っていく。 ・地域を学ぶ学習は総合的な学習の時間で取り組むことができた。内容等については随時検討していく。	B	・保護者が前向きに参加しやすいPTA活動となるよう、行事を精選し負担の軽減を図ってきた。今後は、単なる活動の縮小としないよう、保護者が主体的に参加できる活動を企画していく必要がある。 ・コロナ禍にあっても地域との連携についてさらに検討が必要である。効果と負担のバランスを図っていく。 【授業参観等参加率55.2%、ホームページ更新月1回】	B	・PTAによる安全指導(交通立ち番)については、地域により取り組みのばらつきがあるので、学校からの働きかけを増やしてもらいたい。	教頭 学年主任 ボランティア担当
◎志を高める教育	◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒(中学3年生・義務教育学校9年生)90%以上	・全ての教育活動を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	A	・キャリア教育等を通して、夢や目標をどのように立てていくか等について、考える機会を設けた。	A	・2年生の肯定的な回答は目標値をやや下回っているため、今後の進路指導の中で意識を高めていく。 【アンケート結果で3年生の92%が肯定的な回答】	A	・3年生全員の進路確保ができたのでよかった。	進路指導主事 特別活動主任 学年主任
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通じて目標をおおむね達成できたと考える。 ・目標到達が十分達成できていない項目が半数近くあるので、現状分析とともに課題の洗い出しが必要である。 ・学校内での指導の充実を今後も進めるとともに、学校外との連携を再構築していく必要がある。(保護者や地域、関係団体との連携) 									